



JR 東日本は、福島県いわき市に、 (株)JR とまとランドいわきファームを設立します。

- JR 東日本グループでは、「グループ経営構想 ～限りなき前進～」の中で「地域に生きる」を一つのコンセプトとし、地産品の販路拡大や地域の6次産業化に向けたものづくりに取り組んでいます。
- 地域の農産物の「作り手」が減少しているという現状に接し、地域の先進農家と提携し、トマトの生産を行う新法人を、福島県いわき市に設立することといたしました。
- 新法人は太陽光利用型植物工場を建設し、安全・安心・安定生産を行うとともに、地域やグループ会社と連携し、生産から流通、販売まで一貫した取り組みを通じて、交流人口の創出や地域活性化を図ってまいります。

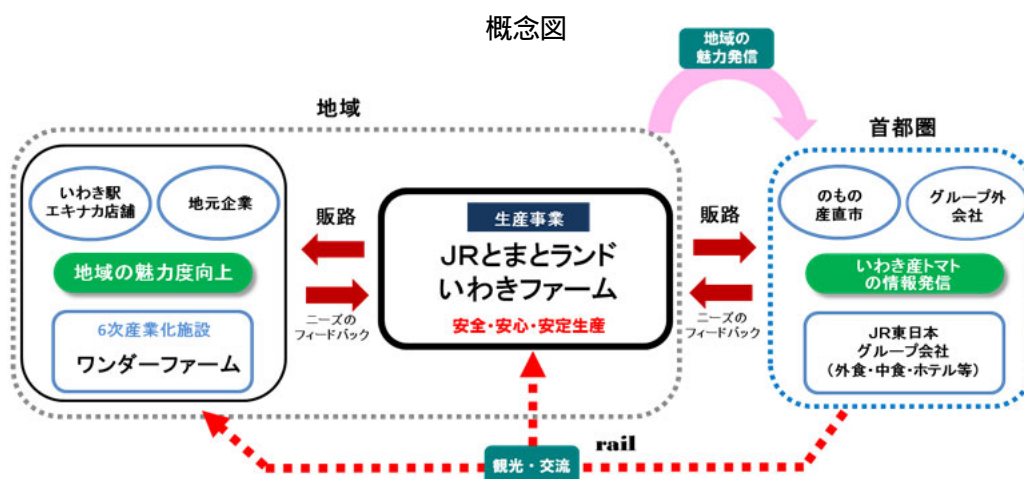
1 目的

JR東日本グループでは、「地域に生きる」というコンセプトのもと、地域との連携を強化し、地産品ショップ「のもの」を中心とした地産品の販路拡大や、地域の6次産業化に向けたものづくりに取り組んでいます。取り組みを進める中で、農産物の「作り手」が減少しているという現状に接し、将来にわたって、農業が魅力的な産業であり続けるためには安全・安心で安定的な生産体制が重要と考え、地域の先進農家と提携し新法人を設立することといたしました。新法人では、地元若手農家の参画により、次世代を担う若手農家の育成も目指します。

2 事業スキーム

太陽光利用型植物工場(以下、「植物工場」)をいち早く取り入れるなど、トマト生産のトップランナーである(有)とまとランドいわきと提携し、新法人「株式会社JRとまとランドいわきファーム」を設立し、トマトの生産を行います。生産したトマトは、首都圏の当社グループ会社で業務用として活用するほか、今回建設する植物工場に隣接するトマトの加工・販売・レストラン等を展開する「ワンダーファーム」で使用する予定です。

また、地域の流通ネットワークとも連携し、トマトの加工や調理を通じた食文化の発掘・創出を促進し、グリーンツーリズムを含めた地域の魅力度向上を図ってまいります。



3 設立会社概要

商号	株式会社JRとまとランドいわきファーム
所在地	福島県いわき市四倉町
設立日	2014年9月4日
代表者	元木 寛
資本金	1.2百万円（2015年度初に、100百万円までの増資を予定）
出資者	農家5名83.3%、とまとランドいわき8.3%、当社8.3% （増資後：とまとランドいわき50.0%、当社49.0%、農家5名1.0%）
生産施設	太陽光利用型植物工場（敷地面積2.5ha、施設面積1.7ha）
生産量	600t/年（予定）
事業内容	（1）農産物の生産、加工、貯蔵、運搬及び販売 （2）観光農園・直売所の運営 （3）通信販売事業等

設立当初は一般法人。準備が整い次第、手続きを行い農業生産法人となる予定。

4 スケジュール

2014年9月4日	（株）JRとまとランドいわきファームの設立
2015年 夏頃	植物工場着工
2016年 春頃	植物工場竣工、栽培開始
2016年 夏頃	植物工場におけるトマトの収穫開始



のもの1-2-3は、JR東日本グループが推進する6次産業化に向けた「ものづくり」プロジェクトです。

（参考1）（有）とまとランドいわき

太陽光利用型植物工場です。単位面積当たりの生産量においては、日本でトップクラスであり、その高い生産技術には定評がある。地域活性化への取り組みも積極的。

- ・所在地： 福島県いわき市四倉町長友字深町30
- ・設立： 2001年10月13日
- ・代表者： 鯨岡 千春
- ・資本金： 33百万円
- ・事業内容： 農産物生産・加工・販売事業、農作業受託事業等
- ・主な受賞歴： 2013年度 農林水産祭天皇杯受賞（施設園芸部門）



植物工場内

（参考2）（株）ワンダーファーム

トマトの直売・加工・レストランなどを展開する6次産業化施設「ワンダーファーム」を建設

- ・運営（施設は2015年度に完成予定）

- ・施設所在地（予定）： 福島県いわき市四倉町中島地内
- ・設立： 2013年4月5日
- ・資本金： 120.5百万円
- ・出資者： （有）とまとランドいわき、東北エア・ウォーター（株）
ふくしま地域産業6次化復興ファンド（予定）
- ・代表者： 元木 寛
- ・事業内容： 農産物加工、農産物販売及び飲食・体験事業等



施設内イメージ

JR 東日本グループが推進する地産品の販路拡大と 6 次産業化の取り組み

JR 東日本グループでは、地域との連携を強化し、地元と共に知恵を絞る「共創」戦略のもと、鉄道ネットワークの特性及び首都圏での販路を持つメリットを活かしながら、更なる地産品の掘り起こし・販路拡大や 6 次産業化に向けたものづくりを推進しています。

今回の取り組み

1 次産業（生産）

1 次：販路のニーズを捉えた農産物の生産

- ・ (株)JRとまとランドいわきファーム（2014 年 9 月設立）
太陽光利用型植物工場で安全・安心・安定生産を行い、地域やグループ会社と連携し、生産から流通まで一貫した取り組みを行う。



生産トマトイメージ

2 次産業（加工）

2 次：加工による付加価値向上

- ・ A-FACTORY（2010 年 12 月開業）
青森のりんごを原料に使用したりんごのお酒“AOMORI CIDRE”を製造・販売。ガラス張りの「魅せる工房」では、シードルの醸造工程の一部を見学可能。
- ・ 十日町すこやかファクトリー（2014 年 9 月開業）
地域の特産物である魚沼産コシヒカリ（米粉）を用いた菓子（アレルギー対応菓子、焼菓子）等を製造。卵・乳・小麦不使用のアレルギー対応ラインを完備。



A-FACTORY 外観



十日町すこやかファクトリー外観

3 次産業（販売）

3 次：地産品の掘り起こしと販路拡大

- ・ 地産品ショップ「のもの」
（上野店：2012 年 1 月、秋葉原店：2014 年 3 月開業）
東日本各地域の銘菓、地酒、加工品等の販売を通じて、地域の魅力を発信。
- ・ 産直市（上野駅など）（2010 年 10 月～）
「生産者」が地域の魅力ある農産物・地産品等を直接販売。自治体と連携し、観光 PR・イベント等も開催。



のもの秋葉原店外観



産直市